

わがまちの自治会 八清親和会 トピックス

会員の元気を 八清地域の元気に

令和2年 第13号

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大により、自治会本来の行事・活動が中止や自粛になったため、この1年間は八清親和会会報で、シリーズものもお伝えしていきます。

八清親和会員も、八清住宅ができた当時の1世代会員が少なくなり、2世代3世代の会員、戦後転入してきた会員等が多くなり、地域の歴史を知る人は少なくなりました。八清住宅地域や八清親和会を見つめ直すシリーズ“わが街・わが自治会の今・昔”を掲載します。

◆第1回は、私たちが住んでいる「八清住宅」と「八清」の由来をご存知ですか！



“戦時中の桑畑が広がる農村地帯に突発的に出現したまち”

“当時としては画期的な近代ニュータウン”

昭和13年(1938)昭和村、現在の立川・昭島市両地にまたがる国営昭和記念公園の地に設立された、名古屋造兵廠立川製作所(後の陸軍航空工廠)が拡張につく拡張で、翌14年には従業員2万人を超える大軍需工場へと急成長した。

こうした状況下で、同工場では従業員住宅建設の必要にせまられ、当時桑畑であった福島町827番地(現在の玉川町3~4丁目)附近一帯の、

約3万坪の土地を買収その建設に着手した。

同16年(1941)10月までに、約500戸の住宅と、集会所、市場、映画館、浴場、保育園、神社、公園などの福利施設が誕生し、ここにロータリーを中心とした、6本の放射線状の道路と区画された大規模な住宅街が誕生した。

即ち、これが「八清住宅街」の起源であり、「八清」の名は、この工事をおこなった八日市屋清太郎氏の名に由来するものである。

当時、陸軍の後押しを受けてこの住宅街開発を一任された八日市屋清太郎氏とは、金沢出身の建築家の2代目で、先代は大正時代の上野博覧会の仮設建築などで鳴らした有名なランカイ屋(博覧会プロデュースを本領とする)だったらしい、この実績を買われたとみられる。

このロータリーを中心とした、当時としては画期的で斬新なまちづくりは、八日市屋氏が、当時としては珍しい欧州旅行を経験しており、そこで広げた見聞から着想を得たものと思われる。

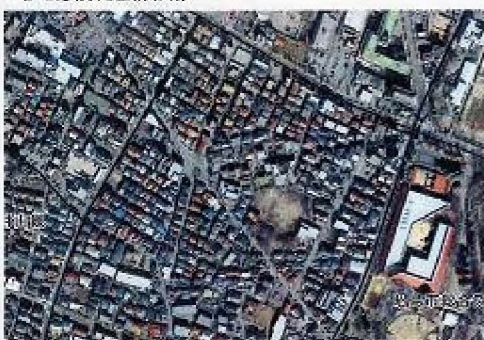
そして街はさらに整備され、三軒長屋など850戸とも言われている賃貸住宅のほか、多くの工員寮も造られ、郵便局なども合わせて、今でいう「大ニュータウン」となったのである。

当時の「となり組」と称する町会は、現在の「八清親和会」の前身となる自治会として、昭和16年10月から結成準備され、第一町会から第五町会の



写真4 昭和22年の八清住宅(写真中央のロータリーが住宅街の中心。東西の道路の北側は空堀付七代目製鋼工場跡地が、東側は昭和22年(No.11-10)国土地理院撮影)

昭和22年(1947)米軍が撮影した貴重な八清住宅地域の航空写真、現在の玉川町1~5丁目付近ロータリーと放射線状の道路がはっきり見える(八清親和会所蔵)



組織ができ、五町内会としこれを「翼町内連合会」として統一した。

この町内会は、戦後の昭和23年秋まで続いたが翌年これを解散し、新しく今日の「八清親和会」が結成誕生し、今日に至っている。

戦後これらの住宅は払い下げられ、また、昭和町として、市場（マーケット）を中心に商店街として新たに街造りも進められ、その結果、当時は周辺町村屈指の住宅ならびに商店街「八清」が生まれたのである。

現在のロータリー前の「玉川会館」は、当時管理事務所で、後に自治体警察となった建物は、親和会事務所として永年使用されてきたが老朽化が激しく、昭和49年10月に市立玉川会館として、市の東部出張所と集会施設を併設し建てられた。このため、八清親和会の集会場としては、現在の昭和天満宮境内一角に、会員等の寄付により「八清親和会館」が建てられ自治会の活動拠点となっている。また、昔を知る人の伝聞によれば、当時の自治体警察は留置場も備えていたと、この地域では大きな警察であったようである。

戦後大火も何度か経験して、長屋や寮は一戸建てに変わり、当時の住所は「東京都西多摩郡昭和町福島町827番地」だったが、昭和29年5月1日に当時の昭和町と拝島町が合併して東京都の7番目の市として「昭島市」が誕生し、住所も「玉川町」となり今日に至っている。時代と共に建物が新しくなっても、当時の場所には、現在も郵便局（昭島玉川郵便局）、八清浴場（昭和湯）、八清住宅管理事務所（玉川会館）が残っているが、今では当時の面影を残すものはロータリーと八清公園、昭和天満宮のみとなった。

八清住宅の住民も、まちができた当時から住んでいる人（1世代）もほとんどいなくなり、現在住んでいる人達は2世代、3世代で、多くの人達は戦後他地域から転入してきた人たちである。このため地域の歴史を知る人は少なくなりましたが、筆者もここで生まれ育ったため、今でも幼いころの記憶で、八清住宅は全国でも珍しい「まちの中心にロータリーがある、放射状道路が広がっているまち」で、「誇れるまち」だと思っている。

また、幼いころの記憶だが、確かまちが完成した記念に、当時のロータリー、映画館、公園、女子寮などのセットになった「絵はがき」が作られ、見た記憶が今でも微かに残っている。

以上
(吉田記)



昭和29年(1954)頃の八清ロータリー
と八清住宅(同年発行の昭島市広報より)



現在の八清ロータリー

- (注) 参考文献・資料
1. 八清町会誕生40周年記念事業委員会作成「八清の歴史と自治会」(昭和58年11月)
 2. 読売新聞 平成26年9月9日掲載 思い出の写真館「八清住宅」
 3. 昭島・日本史・八清ドキュメント(ウエイブ掲載)
 4. 現八清住宅航空写真(グーグルマップ)

八清親和会は、行事・活動の「会員が必要とする情報・会員が知りたい情報」をスピーディに会員に届けるため、平成29年(2017年)から自治連ホームページの「八清親和会紹介ページ」で『トピックス』として、八清親和会広報+お知らせ+報告+その他等を、毎月15~20件ブログ投稿しています。

自宅のインターネットに接続されたPC、携帯のスマホを持っている方 見てください。

□ グーグル・ヤフージャパン等の検索エンジンから直接⇒「八清親和会」を検索。

また、八清天親会(神輿の会)のホームページもあります。

□ グーグル・ヤフージャパン等の検索エンジン⇒「八清天親会」を検索。